

# 塩谷郡市医師会だより

平成18(2006)年10月6日 第43号

社団法人 塩谷郡市医師会 さくら市桜野 1319 番地 3 さくら市氏家保健センター内 Tel 028(682)3518

- ・ 平成 18 年度第 2 回役員会
- ・ 第 2 回塩谷郡市塩谷郡市医師会生活習慣病予防講座
- ・ 塩谷郡市医師会学術講演会

## 平成 18 年度第 2 回役員会報告

平成 18 年 9 月 11 日(月)午後 6 時 30 分よりさくら市氏家保健センター 集団指導室にて開催された。

今回は県医師会執行部より 4 名の先生が参加され意見交換がなされた。

出席者：栃木県医師会会長高島三喜、太田照男、土谷博之、天目純生

尾形会長・小林副会長・戸村副会長・西・山田・後藤・軽部・奥山・根本・岡・阿久津博・本間・尾形新・植木・木内・谷口・植松(勤務医部会)・川原事務長



中央から太田副会長、高島会長、土谷副会長、天目副会長

出席者全員の自己紹介のあと、高島県医師会長から会務の進捗状況、県政調会や看護協会との協議や勤務医部会設立などの報告があった。各副会長から社会保険支払基金が宇都宮市からさいたま市に統合移転されるため、診療報酬の高点数医療機関に対する個別指導が再開されること、県医師会の文書管理を電子化し順次郡市医師会にも導入することなど報告があった。その後質疑応答がなされ、医師会や医療機関の禁煙について、医療訴訟への対応、医師連盟のありかた、地域医療の問題点、医師偏在の解消、医業における消費税の扱いなど活発な質疑がなされた。

執行部退席の後、去る 9 月 5 日に亡くなられた菅又成雄先生のご冥福を祈り全員黙とうを捧げた。

## 議題

(1) 高齢者インフルエンザ予防接種相互乗り入れについて

1. 期間 10 月 1 日～1 月 31 日まで(12 月 31 日までに接種することが望ましい)。
2. 対象者は満 65 歳以上の方。期間中に 65 歳になる方は誕生日から接種可能。
3. 問診票は各市町よりあらかじめ対象医療機関に配布する。市町で様式は異なるが市町名を訂正して他市町の住民に使用できる。
4. 高根沢町は自己負担なし。その他の市町住民は 1000 円の自己負担を徴収する。

## (2) 風疹、麻疹予防接種について

- 1 塩谷地区では平成 18 年 10 月 1 日より開始する。
- 2 . 対象者は小学校入学前年の児(幼稚園保育園の年長児)。
- 3 . 1 回目接種を単独の麻疹、風疹ワクチンをした児でも可。1 回目未接種児でも可。(軽部)

## (3) 医療廃棄物アンケート結果について

今回のアンケート調査は 39 医療機関から回答が得られた。取引内容については容器単位と kg 単位の契約があり、単価もかなりばらつきがあった。月 1 回の収集で排出量も少量の医療機関が多く、排出量の上位 5 医療機関で全体の 90% を占めていた。少量よりも多量が、一括よりも分別のほうが低コストの傾向にあった。医療廃棄物は感染の問題から多くが焼却処理されているが、リサイクル処理を推進していく必要がある。塩谷郡市医師会として中間処理業者と交渉を行いたいとの要望が出され、役員会で了承した。今後ともご協力をお願いします。(尾形新)

## (4) 地域医療の現状と医師会の対応について

県医事厚生課の県北医療に関する資料によると、塩谷地区の中核病院常勤医師数はこの二年間で 41 名から 32 名に減少した。塩谷総合病院における整形外科、小児科医師の確保難にともない、救急医療の確保が困難な状況にある。平日夜間、休日夜間における初期救急医療体制の整備がなされていない。などとされている。実際、交通事故の場合に救急車が 1 時間近く搬送先を探して停車していることがある。医師会で解決できることではないが、塩谷地区医療対策協議会などで継続的に問題提起していく必要がある。

塩谷郡市医師会ホームページ/メール	広報委員会編集部	医師会事務局
URL <a href="http://www.tochigi-med.or.jp/">http://www.tochigi-med.or.jp/</a> shioya/ メール <a href="mailto:shioya@tochigi-med.or.jp">shioya@tochigi-med.or.jp</a>	阿久津博美 <a href="mailto:akutsuiin@crocus.ocn.ne.jp">akutsuiin@crocus.ocn.ne.jp</a> 戸村 光宏 <a href="mailto:mtomura@sirius.ocn.ne.jp">mtomura@sirius.ocn.ne.jp</a>	川原 <a href="mailto:shioya@triton.ocn.ne.jp">shioya@triton.ocn.ne.jp</a> 坂和 <a href="mailto:sakawa@e-shioya.jp">sakawa@e-shioya.jp</a>

## (5) 県医師会代議員会について

平成18年10月14日(土)第117回臨時代議員会が開催されます。質問事項のある方は医師会事務局までお願いします。

### ◆報告事項

#### (1) 休日夜間こども診療室の現況について

こども診療室が開設されて3ヶ月が経過し、7月14日に運営協議会理事会が開かれた。受診者は17診療日で合計199名、1日1診療室あたり約6名で、おおむね順調に運営されている。診療開始時は診療の準備と電話対応が重なり円滑に進まないこと、9時30分以降に来院した場合の対応などを協議した。また当番医師の任期については規定がないが、任期は1年とし本人から申し出がなければ更新する、との方針で次回理事会にて決定したい。(阿久津博)

#### (2) 市民公開講座について

10月1日(日)第2回塩谷郡市医師会生活習慣病予防講座がさくら市氏家公民館にて開催されます。今回のテーマは脳卒中と禁煙です。事前に配布したチラシを手渡し、参加を呼びかけてください。当日は11時集合、午後1時開場です。会場の準備等で人手が必要です。多くの会員の方にご協力をお願いします。(森島)

#### (3) 学術講演会について

下記日程にて学術講演会を予定しております。特に、11月18日(土)の医療崩壊に関する講演は、塩谷郡市医師会で直面している地域医療の諸問題の根源を詳解してくれることと期待しております。先生はこの分野で高名な方で連絡をとるのも大変でした。また、より多くの方に参加いただくよう、宇都宮医師会、内科医会などと共催を交渉中です。

場所は東日本ホテルです。ぜひご参加ください。  
(山田)

9月12日(火)

「実地医家のための喘息発作時の対処法と最近の治療戦略」

獨協医科大学呼吸器・アレルギー内科  
相良博典先生

11月18日(土)(仮)東日本ホテル

「医療崩壊」

虎ノ門病院泌尿器科部長 小松秀樹先生

平成19年1月下旬(仮)

「医療訴訟」

順天堂大学順天堂医院 医療安全管理室長  
小林弘幸 先生

## (4) その他

### 栃木県医師会勤務医部会設立総会報告

平成18年9月2日(土)県医師会勤務医部会が設立されたことが、塩谷総合病院植松先生から報告されました。医師会と勤務医との関係、医療政策、勤務医の労働条件などを検討する特別部会が設置されたが、勤務医部会はまだ入会者が少なく、各病院をローテーションする若い先生が入会しにくい理由は、転勤ごとに郡市医師会の入退会を繰り返さなければならない、会費の支払い(病院経費でなく個人支出)、診療や学会、認定医取得などで医師会活動に割く時間が無いなどが挙げられました。(文責：阿久津博美)

### ■トピックス



#### 全国縦断禁煙キャンペーン

WALK AGAINST TOBACCO 2006

日本社会における喫煙および受動喫煙の実態を憂い、禁煙先進国オーストラリアのマーク・ギブンスさんが鹿児島県佐多岬から北海道宗谷岬まで約3100kmを88日間かけて歩く喫煙抗議ウォークを実行。6月2~5日小山、自治医大、さくら市、黒磯と栃木県を通過するにあたり、塩谷郡市医師会でも全面的に協力を呼びかけました。徒歩で1日40kmはかなりのスピードです。

日々トレーニングされている某先生が伴走しました。写真は宇都宮オリオン通りでの一コマです。6月4日到着後、サポーターの方々と医師会員が集まり歓迎・激励会を行いました。翌朝、さくら市役所を出発し国道4号線を北上、塩谷総合病院を始め、沿道の各医療機関で声援とともに見送られ、黒磯へ向かいました。

さくら市がホームステイ先に選ばれたのは全くの偶然で、地図上で1日40kmの区切りが、たまたまさくら市だったそうです。後日談ですが、7月9日に北海道旅行されていた当医師会の先生が宗谷岬を観光していた時、まさに到着、達成の瞬間に居合わせたそうです。医師会にとって何かとご縁のあるイベントでしたが、さらなる禁煙活動を推進する契機になったのではないかと考えております。

(広報：阿久津博美)

宇都宮市内をお遍路姿のマークさんと伴走する森島会員





● 第2回塩谷郡医師会市生活習慣病予防講座

平成18年10月1日(日)13時30分～さくら市氏家公民館において第2回生活習慣病予防講座が開催されました。天候に恵まれ、約650名の方が来場されました。今回は日本禁煙学会理事長を務める杏林大学の作田 学教授をお招きし、「脳卒中のリスクファクターと予防」と題して講演をいただきました。特にタバコの害については、肺癌はもちろんのこと、生活習慣病の一つである脳卒中の重大な危険



因子であることを強調されました。気管支鏡の映像と脳の病理断面梗塞巣から暗褐色の血液が流れ出るシーンは衝撃的でした。受動喫煙についても、喫煙者の半径7メートルの範囲に被害が及び、かつて病棟にあった喫煙室からの煙で脳虚血発作が誘発

された症例が報告され、これが契機となり病院内禁煙が実現したそうです。講演の後、参加者から多数の質問があり、活発な質疑がなされました。



司会：岡理事  
座長：森島会員

運動療法講座

本講演会の前半は健康運動指導士 尾形晴子先生による「きらピカ体操」の指導がありました。

生活習慣病の予防や介護予防に適した運動についての講演と尾形クリニックリハビリテーションスタッフによる実演指導がなされ、会場全員が実際に手足を動かして参加しました。(文責：阿久津博美)



「365歩のマーチ」を歌いながら楽しく体を動かしました  
左：来賓の秋元喜平さくら市長 右：スタッフの会員



テーマ：「2型糖尿病の薬剤選択と最新の治療」

日時：平成18年7月11日 19時～

場所：さくら市氏家保健センター

講師：獨協医科大学内分泌代謝内科

門傳 剛 助教授

要旨：日本全国の糖尿病患者数は740万人と推定され、その1/3が通院中であり医療費は1.12兆円といわれている。治療にあたりヘモグロビンA1cが7%を超えないよう、作用機序が異なる薬剤を組み合わせる。血中インスリン濃度が低い場合は グルコシダーゼ阻害薬、ピグアナイド系を、濃度が高くインスリン抵抗性が示唆される場合はピオグリタゾン、ピグアナイド系を選択する。第2世代SU剤は強力な血糖低下作用があるが、細胞機能低下や二次無効の問題や重症低血糖の報告が増加しており、第3世代SU剤に変わりつつある。最近ピグアナイド系薬剤が見直されており、早朝空腹時に血糖の高い症例に有効である。通常の投与量ではそれほど副作用を心配しなくて良い。遺伝子調節薬のピオグリタゾン(アクトス)はアディポネクチンを増加させインスリン抵抗性を改善する。特に肥満のある女性には著効を示すが、体重が増加するので、1錠(15mg)の隔日投与が勧められる。インスリン注射剤と内服薬の併用療法も推奨されている。糖尿病の初期には運動と食事療法で経過観察するが、3~5ヶ月後もヘモグロビンA1cが7%以上であれば薬物療法を開始している。(文責：広報委員 阿久津博美)

テーマ

「実地医家のための喘息発作の対処法と最近の治療戦略」

日時：平成18年9月12日 19時～

場所：さくら市氏家保健センター

講師：獨協医科大学アレルギー内科 相良 博典

要旨：喘息発作に対して 刺激剤は有効であるが、長期使用すると気道の炎症が続きリモデリングが起こり(不可逆性変化を来し)治療に難渋する。

高齢者では年間3000人以上が喘息発作で死亡している。喘息の本体である気道の炎症を抑えるには吸入ステロイドが有効である。粒子の大きさにより肺胞への到達度が違うが、たとえばアルデシンは4%、フルタイドは12%、キュバルは50%といわれているが、臨床効果では評価が分かっている。

喘息のコントロールとして、吸入2刺激剤の使用が1日5回以上の場合には薬剤を見直す必要がある。重症発作時は第一にボスミンを0.1~0.3ml皮下注する。次いでリン酸デキサメサゾン剤(リンデロン、デカドロン)を用いるが、特にアスピリン喘息ではコハク酸メチルプレドニゾン・ヒドロコルチゾン(ソルコーテフ、サクシゾン)は避けること、また

アミノフィリンの使用時は抗生物質などで血中濃度が上昇するので注意が必要である。2 刺激剤の単独療法は避け、吸入ステロイドとロイコトリエン拮抗薬などで経過観察することが望ましい。

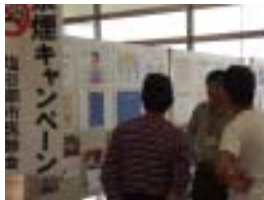
(文責：広報委員 阿久津博美)

## さくら市健康祭りに塩医会員が参加

平成 18 年 10 月 8 日(日)、さくら市喜連川保健センターにおいて、さくら市健康祭りが開催されました。この健康祭りは氏家町と喜連川町が合併して初めて開かれるもので、さくら市健康福祉部が主催しました。また隣接する会場ではさくら市社会福祉協議会主催の福祉まつりも開かれました。

塩谷郡市医師会から、小林、金澤、佐藤、仲嶋の 4 人の先生が生活習慣病を中心とした健康相談に、森島、岡の 2 名が禁煙教室を開いて参加しました。

また、当日は、黒須病院の東検査技師と小林医院の佐藤、平松看護師の協力で住民の方の form 測定(動脈硬化の指標の一つ)も行いました。



熱心に禁煙の話聞き入る方々、また、健康相談コーナーはたちまち行列となり、予約していただくことになったほどでした。

地域の皆さまと触れ合い市民の健康増進・健康維持に協力した一日でした。

(文責：岡一雄)

## 新入会員紹介

つのだ てつお  
**角田 哲男**

きうち産婦人科医院副院長(矢板市)18年4月1日入会  
この度、塩谷郡市医師会に入会させていただきました角田哲男と申します。

生まれは神奈川県横須賀市ですが、もう栃木に来て 20 年以上になりますので、すっかり「栃木人」となっております。

平成 5 年に新潟大学医学部を卒業後、2 年間済生会宇都宮病院で臨床研修を行い、その後自治医科大学産婦人科に入局、産婦人科一般診療に携わってまいりました。その後、平成 14 年に日光市民病院産婦人科を立ち上げ、4 年間勤務してきましたが、この 4 月から、きうち産婦人科医院に勤務することとなりました。

専門は、産婦人科一般、分娩の他に、思春期医学を専門としており、思春期外来や小中学校での性教育講演会、メール相談や電話相談などを行っております。また、エアロビクスインストラクターという一面もあり、スタジオ i ではレッスンを担当しております。

「生まれ来る子どもたちが幸せに!」を目指して努力していきたい所存であります。諸先生方のご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

よしだとく  
**吉田 徳**

高根沢中央病院勤務(高根沢町)18年6月1日入会  
この度、塩谷郡市医師会に入会させていただきました吉田徳と申します。

出身は神奈川県横浜市で、平成 14 年に獨協医科大学を卒業後、同大学整形外科に入局いたしました。以後は外傷疾患を中心に整形外科全般の治療に携わってきました。平成 16 年には同大救命救急センターに派遣され、1 年間貴重な救命救急の現場での医療を学びました。その間、改めてコメディカルとの連携の大切さを教えていただき、J P T E C を取得させていただきました。

その後小山市民病院に派遣となり、整形外科一般および救急部診療に携わらせていただきました。日々の診療に携わる中で、整形外科におけるプライマリーケアの重要性を痛感していました。手術だけでなく、保存的治療を望まれる患者さんが多いこと、またそれによりスポイルされる機能の在り方へのアプローチ、リハビリテーションを含めた日常生活の細やかなケアが必要だろうと感じ、平成 18 年 4 月をもって獨協医科大学を退職し、より患者さんと対話の持てるプライマリーケアが行える高根沢中央病院に就職させていただきました。

もともと外来=プライマリーにおける勉強は大病院等では学ぶことがなかなかできないため、戸惑うことは多いですが、AKA 研修会を初め、教科書片手に地域に根ざした診療を心がけております。

まだまだ、若輩者で微力ではありますが、諸先輩方のご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

## ●事務局からのお知らせ

\*平成 18 年度医療実態調査(栃木県保健福祉部)  
10 月 3、4、5 日の調査はお済でしょうか?  
調査票に記入されましたら郡市医師会事務局までお届けください。一括して県に提出しますのでよろしく願いいたします。  
期日は **10 月 16 日** となっております。

\*平成 18 年度郡市医師会保険診療研修会(県医)  
日時:平成 11 年 2 日(木)午後 6 時 30 分  
場所:清水荘ホテル(さくら市)  
院長および医療機関管理者は必ず出席してください。集団的個別指導に相当するものです。  
F A X で参加者数をお知らせ下さい。  
期日は 10 月 17 日 F A X : 028-682-5760